

令和3年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
Re:R2 ウーリークラブ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

令和2年度ウーリークラブに参加した家族が再び集い、子育ての情報交換を行ったり、体験活動を通じて交流し、自然への関心を高めたりする。

2. 事業の概要

（1）期日

令和3年11月6日（土）～11月7日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

令和2年度ウーリークラブに参加した11家族

② 参加人数

29人（9家族）

（3）企画・運営のポイント

- ① ウリソツクラブ廃止に伴い、1年間しか活動できなかった令和2年度ウーリークラブ参加家族のみを参加対象とした。
- ② 新型コロナウイルス感染症による休園・休校に伴い土曜保育・土曜授業がある参加者に合わせて、集合時間を昨年同様参加しやすい時間に設定するようにした。
- ③ 親子離れての活動を取り入れることで、保護者が子供たちの成長を振り返り、保護者同士で交流できる時間を設けた。
- ④ 昨年度行っていないクラフト活動（焼き板）を取り入れ、子どもたちが思い出の品を作ることができるようとした。
- ⑤ これまでの活動で撮影した写真を使い、保護者が子供へプレゼントするアルバム作りを行い、活動を振り返り、子供の成長の様子を実感できるようにした。

3. 活動の内容等

（1）日程

11月6日（土）		11月7日（日）	
14:00	受付	6:45	起床・洗面・掃除
14:30	お久しぶりの会	8:00	朝食
15:00	（子供）ハイキング （大人）情報交換会 アルバム作り	10:00 12:00 13:30	クラフト活動（焼き板） 昼食 おやつ作り（焼き芋）
17:30	夕食	15:00	ふりかえり
19:00	絵本の読み聞かせ	15:30	さよならの会
20:00	入浴		
21:30	就寝		

(2) 活動の状況



【お久しぶりの会】



【アイスブレイク】



【ハイキング（子供）】



【ハイキング（子供）】



【絵本の読み聞かせ】



【クラフト活動（焼き板）】



【クラフト活動（焼き板）】



【クラフト活動（焼き板）】



【クラフト活動（焼き板）】



【おやつ作り（焼き芋）】



【おやつ作り(焼き芋)】



【おやつ作り(焼き芋)】



【ふりかえり】



【ふりかえり】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① ハイキングから帰った子供の顔が清々しく、「楽しかった！」と言っていました。初回（昨年度）は親子離れての活動を嫌がっていましたが、慣れたころには楽しそうに行っていたので成長を感じました。
- ② ハイキングから帰ってきたときに、みんながより仲良くなっているように感じました。
- ③ アルバム作りは、貴重な時間で、とても楽しかったです。
- ④ 焼き板を知らなかったので、とても良い体験になりました。クラフト活動は、子供たちの個性が出て、楽しいです。
- ⑤ 焼き板は、子供たちの思い出になる作品作りができて良かったです。もう少し難しい内容でも良かったのかなと思いました。
- ⑥ おやつ作りは、薪割りからできて、良い経験になりました。昼食を食べてお腹いっぱいのはずなのに、パクパク食べられました。
- ⑦ ムービーまで用意していただいて、感激でした。全4回、本当に色々な体験をさせていただいて感謝でいっぱいです。ウーリークラブのあたたかい雰囲気が大好きです。

(3) 成果

- ① 子供と保護者に分かれての活動では、子供たちは活動に対して達成感を感じることができたようだった。また、兄弟でなくとも年長者が年少者の様子を見ながら活動している姿が見られた。
- ② 保護者が子供と離れて、アルバムを作成したことで、ゆっくりと子供の成長を感じたり、保護者同士が交流したりすることができた。
- ③ 焼き板や焼き芋など、参加者にとって初めての活動を取り入れたことで、活動のマンネリ化を防ぐことができた。
- ④ また当所を利用したい、当所事業に参加したいという声を聞くことができた。

(4) 今後の課題

- ① ハイキングのコースを年少者に合わせて、短く設定したが、予定時間より早く終わり、子供たちの体力も残っていたので、様子を見て変更可能なコースやレベルを調整できるようにする。
- ② 学校園や家庭の都合で遅れて参加する家族について、保護者が交流できる時間を確保できるようにする。
- ③ 初めて行う活動に対して、想定が甘く、待ち時間が発生したので、初めて行う活動については担当職員で試作し、想定を細かくしておく必要がある。
- ④ 新型コロナウイルス感染防止対策として活動前後に手指の消毒を行ったり、活動部屋の換気を行ったりしたが、密になってしまう場面も見られたため、活動内容や部屋についてさらに検討する必要がある。
- ⑤ 当所を何度も利用してくださっている参加者も多いため、活動がマンネリ化しないよう、幼児対象の活動について内容を工夫・検討する必要がある。

担当：事業推進係兼企画指導専門職付
竹井 楓夏